

# 11 月市教研 家庭科学習指導案

**題材名 袋活躍プロジェクト  
-布資源に意味のある人生を-**



とてもある 7.1% まあある 7.1% 少しある 21.4%

ほとんどない 7.1% 全くない 57.1%

5. 自分またはおうちで使うために作りたい袋はありますか？（必要だが現在ない、あるとうれしい、思い出になる 等の理由で作りたい理由となるもの）

とてもつくりたいものがある 28.6% つくれば使えようというものがある 32.1%

どちらかまだわからない 21.4% つくっても多分使わないだろうと思う 14.3%

つくっても全く使わない 3.6%

6. ミシンでものづくりをすることは好きですか

好き 25% まあ好き 28.6% どちらでもない 28.6% 少し嫌い 14.3% 嫌い 3.6%

7. ミシンの使い方の自信はどうですか

ある 0% まあある 32.1% どちらでもない 21.4% あまりない 35.7% ない 10.7%

調査結果から、児童は比較的家族や家庭生活へのかかわりが多い。そのため、家庭の袋調査や必要性についても妥当な検討ができると考えられる。一方、3. 地域とのかかわりでは、ほとんどない、全くないと回答した児童が約8割となった。また4. 地域のための取り組みでは、「ある」と回答した児童も半数がゴミを持ち帰った、拾ったなどで、人とかかわりはほとんどないことがわかる。コロナ禍によりお祭り等の行事が減り、いっそう地域とのかかわりがなくなっていることが予想される。5. 作りたい袋の質問から、一定数の児童が既に必要性がない可能性があることがうかがえた。全体を通して家族・家庭での実践が少ない児童や製作への苦手意識をもっている児童も一定数いると考えられる。友達の意見や取り組み等を情報交換や、ミシンボランティア等の活用で知識技能の定着がはかれるようにしていきたい。

### （3）本指導案の主張

実態調査から本題材では製作の目的を考える際に、視点を学校・地域までに広げることとした。例えば学校では、委員会活動や物の収納で使う袋の製作が考えられ、地域ではスーパーの袋が有料制になったことを踏まえ、貸し出し制の袋の提供が考えられる。学校や地域の袋の必要性を検討することで、児童の生活の中で最も袋が必要とされる場面を想定することができる考えた。これは「家族や地域の人々との関わり（A-(3)）」、「環境に配慮した生活（C-(2)）」、「家族・家庭生活における課題と実践（A-(4)）」ともかかわる題材となる。

活動にあたっては、製作目的が個人の使用である児童も一緒になり、学校や地域の必要な袋製作について考え、問題解決をする活動を行う。そうすることで、資源を大切にしながらも、生活をよりよくするために学校や地域に対して自分ができることを各自が考えようとするだろう。これはつまり、持続可能な社会を実現する一員として児童が学びを深めることを意図している。

### 3. 題材の目標

知識・技能	思考力・判断力・表現力	学びに向かう力
ミシンを使った袋製作の手順を理解し、使用目的に合った製作ができています。	自分の生活を踏まえて必要な袋とそのつくりについて考えることができる	持続可能な社会実現のために、自分にとってよりよい袋製作の方法を考えようとする

※中心題材としての目標であり、関連題材の一部の目標は割愛する

**4. 指導と評価の計画** ※生活を豊かにソーイング＝ソーイング、共に生きる地域での生活＝共に生きる、持続可能な社会を生きる＝持続可能 としてスペースによっては省略して表示

小題材	時数	ねらい	○学習内容 ◆評価
生活を豊かにソーイング	1	○生活の中の袋の存在について考え、目的の違いで布の種類や形、袋のつくりが変わることに気づき、袋製作の見通しをもつ。	○複数の袋の比較を通して、袋づくりに必要な要素について考える。 ○ビニール袋の有料化などのニュースから、袋と私たちの生活の関わり、環境に配慮した生活のあり方について考える。 ◆目的や用途によって、袋のつくりや必要な布の種類等が変わることに気づいている。(知・技) ◆環境に配慮した具体的な生活の在り方について考えている。(思・判・表)
	題材を通したテーマ 誰か(私、家族、地域など)にとって必要となる袋を考えよう		
	課外	○身の回りにある袋の役割や物の量について把握し、必要性を検討する見方を養う。	○自分が使う袋がどのくらいあるか、観点に分けて家の調査を行う。つくりたい袋を考える。 ・観点：使用目的、頻度、個数 ・必要だがないものがあれば、それも記入する
		例：買い物用のバッグ←洗える＝衛生的、現在は一つしかないから交代で使えるように、タブレットを入れるケースバッグ(チャック付き)、教室移動の時のバッグ、放課後出かける時のナップザック→今使っているバッグもあるが、物が多い時用	
共に生きる	1	○自治会や地域の安全見守り活動など、日頃の地域とのかかわりについて理解する。	○フォトランゲージから地域の生活に目を向ける ・導入：安全、騒音、ゴミ、公園等の行事など ◆地域の方々にしてもらっていることを理解し、自分が地域のためにお返しできそうなことを考えている。(思・判・表)
持続可能	1(本時)	○自分・家族の生活、さらに学校や地域の生活までの視点をもって、目的にあった製作を考える。	○袋を使用する場面を想起し、作りたい袋と使用目的を伝え合う ○本当に必要か考える。 ◆使用目的と必要性を考慮し、無駄にならない袋製作を考えている。(思・判・表)
共に生きる	2	○学校・地域の人々と共に環境に配慮した生活を考える。	○袋製作に必要性を見いだせない場合、学校や地域で使える袋と資源の利用について考える。 ○学校・地域にできそうな「袋プロジェクト」を計画・準備する ◆身の周りの生活を振り返り、地域の中で使われる可能性のある袋の用途について考えている(思・判・表)
生	課	○袋のつくりを意識	○余裕をもって、つくる袋の大きさを決める。

	外	して、必要な布の大きさを考える	・入れたいもののサイズをもとに作りたい大きさを考える
	1	○作りたい大きさから縫い代を踏まえて布を裁つ。 ○ミシンの使い方を復習する	○ミシンで縫う準備をする ・目的、作るものの大きさから、作る型を決める ・縫い代を含めて、必要な布の大きさを考える ・布に印をつけて裁つ（縫うラインも） ・ミシンの糸の通し方や構造の復習 ◆ワークシートに目的を記入し、自分の目的に合った製作物を考えている。（思・判・表）
	6	○布のつくりを踏まえて、布を縫い合わせることができる。	○ミシンで袋製作をする ・脇を縫う（ナップザックはひも通しも） 2 ・脇を縫って、出し入れ口の準備 2 ・出し入れ口を縫い上げる 2 つくる袋の型ごとに作り方の紹介。ひも通し口のこと、口開きどまりを縫うこと、ナップザック折り返してから縫うこと ◆使用目的に合わせた縫い合わせができています。（知・技）
共に生きる	1	○地域に関係する方々へ感謝の気持ちをもってかかわろうとする	○出来上がった袋をどう置いてもらうか、使い方などを検討する。 ○学校や地域の方へ普段お世話になっていることを踏まえて袋を渡すための準備をする。 ◆持続可能な社会のために、自分ができそうなことを考えている。（主体）
ソーイング	1	○製作の目的を達成できたか自己評価する	○互いの袋づくり、使ってみての振り返りを報告しあう。 ・目的をもとに袋づくりの工夫点を紹介しあう ・地域の貸し出し袋、提供袋の報告をする ◆自分の製作物について、目的を達成したかどうかの振り返りを、根拠立てて自己評価している。（思・判・表）

## 5. 本時の目標

○自分・家族の生活を想起して、目的にあった袋製作とその必要性について考える。（思考力・判断力・表現力）

## 6. 本時の流れ

時間	○学習活動と内容	○教師の指導と支援 ◆評価	教具等
5	○家庭袋調査を振り返る ・袋がたくさんあったよ。 ・使わない袋もあるなあ	○自分のもの、家族と共有のもので用途や使う頻度を発表させる。	
<b>🎯 製作する必要がある袋はどのようなものだろうか</b>			
7	○地球家族*1の写真から、日本と世界の物に着目する ・日本は建物が狭い ・でも物の量は多いよ ・使っていない物があるなあ	○日本の特徴と物の量に着目させ、物との関わり方を考えさせる。 「日本の特徴は何でしょう」 ※四季による服や器具が増えること、住宅の特徴等をおさえる<伝統・文化>	*1 地球家族…世界の家族の生活用具がと家屋が写った写真ブック（日本、アメリカ、エチオピア、イランなど）
10	○ものが増えてしまう・使っていないエピソードを発表する。 ・旅行の思い出の品や貰い物はなかなか捨てられない ・景品でもらって使っていない	○児童の発表をもとに、目的（使用・思い出）、必要性、材質に着目させる。 「物が多くなることに関して、思い当たることはあるかな？」 ・材質についても SDGs の視点から社会的に着目されているよ。	・プラゴミ新法案について ・マイクロプラスチック問題
3	○作ろうとする袋について考える。 ・もう古いから使わない袋があるから、新しく作りたい ・使うお土産を入れたり買い物を入れたりする袋が欲しい。	○家庭袋調査と提示した資料を基に、無駄なく必要性のあるものを考えさせる。 ・何も作る必要性がないことも許容する ・「～のための、・・・な袋」という言葉でまとめさせる。 ・必要性を☆三段階で決めさせる	作品例の袋（ナップザック・巾着型、トートバッグ型、クラッチバッグ型など）
10	○作ろうとする袋について相談する	○製作を検討している袋の目的と必要性について班内で紹介しあい、必要性を再検討させる。 ・「本当に必要？」「今はどうしているの？」とキーワードを伝える。 ・聞く人は、本当に必要か、製作以外の可能性、代案も考えさせる。	
3	○今日の授業をふまえて「製作する必要がある袋」の条件を再確認する	○板書で話し合いを振り返り、作るにあたっての目的、必要性、素材など簡単	

7	<p>○自分の製作するものとその必要性、または製作しない理由をまとめる</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・よく中身の入れ替えを忘れて、筆箱を忘れるから習い事専用のナップザックを新しく作ろう。</li> <li>・今の生活で物は十分足りているから、地域で役立つものを考えたいな。</li> </ul>	<p>に確認する</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○作り方や素材の個別支援・相談に乗る</li> <li>・製作する必要性がない人のために、何をつくるべきか考える時間を設けることを伝える。</li> <li>・昨年の学習を生かし、布の手に入れ方についても目を向けさせる。</li> </ul> <p>◆目的と必要性を考慮し、無駄にならない根拠をもって、袋製作を考えている。(思・判・表)</p>	
---	--	--	--

## 7. 次時の流れ

時間	○学習活動と内容	○教師の指導と支援 ◆評価	教具等
5	○前時に袋製作の必要性がない・高くない人の理由を再度確認する。 ・自分や家族が必要な袋はもうあるからいらぬ ・確かに新しい袋があったらいいかもしれないけど、もったいないなあ	○今回のテーマは「誰かにとって必要な袋」であり作るとは決まっていることを確認する。 ・「家庭で必要ないならば、ほかのところで役立つないか考えてみよう」	
<b>㊦ 袋にとって意味のある人生を考えよう</b>			
15	○袋の意味のある人生をブレインストーミングで考える ・学校：たてわりや委員会で使えるかなあ。 ・地域施設：コンビニ、スーパー、クリーニングの受け取りで使えるなあ ・地域の人：セーフティウォッチャーさんに旗や腕章の管理に使ってもらえるかも。	○家庭以外で袋が使われる場所や機会を想起させる。 ・「学区の中・地域で袋が使われるところはどこかな。袋が欲しいと思った場面は無いかな。」 ・意見が出ない場合、前時のプラゴミ新法（レジ袋有料等）の資料を再度提示する ◆持続可能な社会のために、自分ができそうなことを考えている。(思・判・表)	前時に使ったプラゴミ・有料レジ袋資料
<b>袋活躍プロジェクトをはじめよう</b>			
8	○学校で、地域の施設で、地域の人に生活を豊かにできることを考える	○学校・店の場所や使用用途ごとにプロジェクトを分け、それぞれ希望を募る。	
10	○自分が参加するプロジェクトで集まり、大体の方向性を詰める。	○他クラスの進行状況に合わせ、実現可能なものを整理する ※学校・地域のための製作は、学校の経費・残布・リサイクル布を活用する	
7	○自分なりのアイデアを考える	○自分・学校・地域の生活をふまえて、袋が活躍する方法を考えさせる ◆最終的に目的と必要性を意識して、自分が作る袋を決めている。 ◆身の周りの生活を振り返り、地域の中で使われる可能性のある袋の用途を考えている（主体的な態度）	